丸山平次郎の略歴

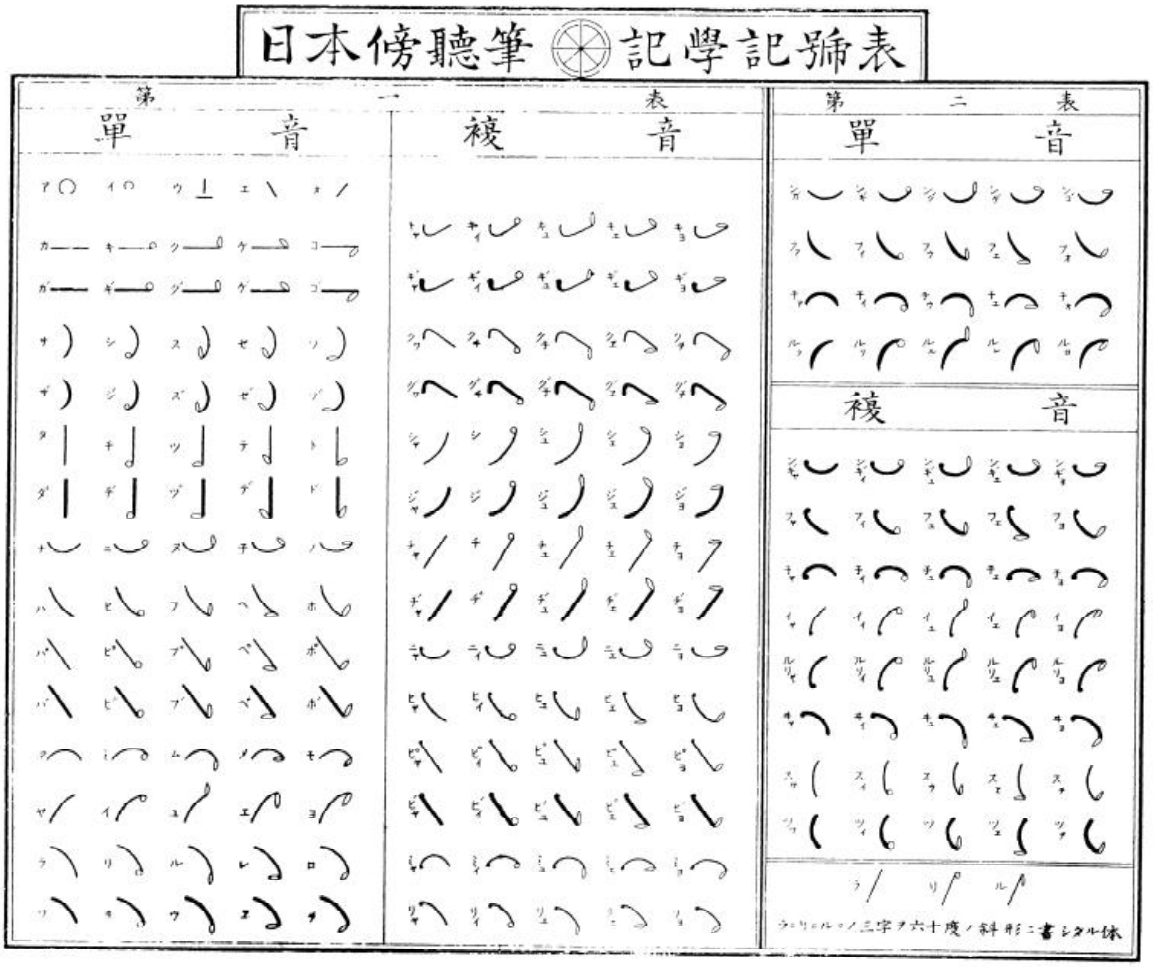
「日本速記50年史」の原稿を現代風に書き直しました。〔管理人〕

関西方面には、大阪における速記発達史上で特筆すべき人に丸山平次郎がいた。氏は慶応元年（1865年）２月に長野県の松本で生まれた。明治16年に上京した。傍聴筆記法講習会第３回の卒業者には、同期の新井田次郎がいた。日本傍聴筆記法の普及発達を図るため、明治18年６月に新井田次郎とともに大阪に派遣されて、日本傍聴筆記学会大阪支会を開設したが、新井田次郎が去っから１人で経営に当たっていた。

大阪では明治17年に既に高麗橋４丁目で「速成筆記学会」が平林静順（若林門下）という僧侶によって創設されていた。東京、京都、神戸にも支部を設け、盛んに新聞広告などして教授を始めて一時はなかなか盛んだったが、成功しないでいつの間にか自然消滅した。その後に下阪したのが丸山平次郎と新井田次郎だったが、教授の看板を掲げても習いに来る人が少なく、来た人も皆途中で挫折してこなくなった。一時は非常に悲惨な境遇に立ったが、その間、勇を鼓し、心血を注いで著したものが「ことば乃写真法」である。当時の新聞に大げさに宣伝され、たちまち人気を集め、大阪、京都、名古屋等において**海賊版**が７種類ほど発行されベストセラーになり、数万部が売れた。「ことば乃写真法」という名称はこの書によって広く世間に知れ渡った。この勢いに乗じて地方拡張を志し、四国に渡り香川県の丸亀に居を構えたのが明治19年６月だった。そうして教授を開始し、その後、多度津あたりへも出張教授をしている。また、明治20年の有名な大井憲太郎の国事犯事件の公判が開かれたときに朝日新聞社の招きに応じて傍聴筆記に従事して非常な好評を博した。

その後明治23年11月、山田都一郎、柳田周吉（ともに明治22年田鎖綱紀大阪出張中「大日本早書学中央伝習局」の卒業生である）と一緒に、名古屋より再び来た田鎖綱紀を顧問として北区真砂町の自宅に**「関西速記社」**を設立して速記術を教授した。また広く速記の依頼に応じ、関西速記界を開拓したが、明治24年７月に山田都一郎は大阪府の内務部に採用され、府の農工商に関する講演・講話等の速記を担当することになった。また柳田は明治25年６月に「関西速記社」から別れて「大阪速記会」を設立したので「関西速記社」は丸山平次郎の個人経営となった。柳田は明治26年に死亡した。翌明治26年５月市立大阪商業学校（後の市立大阪高等商業学校、今の大阪商科大学の前身）に随意科として速記科を設けて丸山平次郎が講師になり、自著「速記規範」を教科書として使用した。学習希望者は少なかったが、明治29年まで続けて26名の修業者を出した。その後も速記教育に尽くしているが、その功績は山田都一郎とともに速記史上没すべからざるものがあった。名なり功とげてついに昭和７

年68歳＊を一期として永眠した。

出典：日本速記50年史

＊「昭和28年度　日本速記者名鑑」では大正９年２月７日に死去56歳。